

# 虫歯や歯周病を予防し、一生自分の歯で食べるための「本当のお話」

虫歯や歯周病はほぼ完全に予防ができ、治療法も進歩しているため、ほとんど歯が抜けなくなり自分の歯で一生食べることができると、第3・7・13・15弾で説明しました。しかし、どうして多くの日本人が未だに歯を失っているのでしょうか？このことを、日本の医療制度の面から説明します。

**スウェーデンでは予防歯科を積極的に導入し、口腔環境の改善に成功しています。**

図1は、日本とスウェーデンにおける1人あたりの歯の数を示しています。スウェーデンでは、1970年頃から虫歯や歯周病の予防歯科診療が公的な医療システムに積極的に導入されるようになりました。その結果、40年後の2013年には、ほとんどの人が自分の歯で一生食べることができるようになっています。一方日本では、高齢になるに従って歯を失う状態が続いており、スウェーデンの20年前前よりは、虫歯や歯周病の予防に原則的に保険が効かないことが強く影響しています。虫歯や歯周病が悪くなつてから歯石を取る・歯を削る・詰める・抜くなどの施術に保険が利くような仕組みになっていきます。そのため、歯を失うことが多いと考えられています。また、無理に保険で予防をしようとして中途半端になり、虫歯や歯周病になってしまったケースもよくあります。結果として、「安かろう、悪かろう」の予

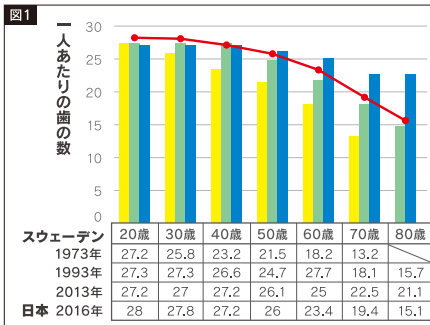
防歯科になって大切な歯を失い、「かえって高くつく」ことになります。

**虫歯や歯周病にならずに結果としてコストを抑えることが、本当のお得なお話です。**

現実的な予防歯科は、現在の日本の医療保険では無理であるといわれています。現時点では保険外診療で予防歯科を受けることができ、いただき、虫歯や歯周病にならずに自分の歯の健康を守ることが賢明なようです。



▲ 適正な予防歯科を当院で17年間受けた73歳の女性。17年間に歯は1本も抜けておらず、すべての歯28本を持っている。



1973年のスウェーデンでは多くの人が年齢と共に歯を失っていた。予防歯科が公的歯科医療に導入され、40年後の2013年には失う歯の数は少なくなり、ほとんどの人が一生自分の歯で食べるようになった(80歳で21本)。日本の現状は、年齢とともに歯が抜ける悪い状態である。スウェーデンの1993年レベルに相当し、約20年遅れている。(Norderyd O et al. Swed Dent J. 2015; 2016年 歯科疾患実態調査)



医療法人 くのうえ市丸歯科 院長市丸英二先生

長崎大学歯学部大学院卒業後、米国立スタンフォード大学医学部研究員を務める。歯周病に関する国際的な論文発表などを重ね、日本歯周病学会認定専門医・指導医、日本口腔インプラント学会インプラント専門医として活動中。

TEL.0942-81-5410 住/鳥栖市蔵上2丁目187番地 URL www.10shika.jp

## 医療法人 くのうえ市丸歯科



院長 市丸英二 (歯学博士)  
 ・日本歯周病学会認定 歯周病専門医・指導医  
 ・長崎大学大学院 (歯周病学) 卒

副院長 山口竜亮 (歯学博士)  
 ・長崎大学大学院 (歯周病学) 卒



お問い合わせ・ご予約  
**☎0942-81-5410**  
 鳥栖市蔵上2丁目187番地



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
10:00~13:00	◎	祝日のある週のみ診療	◎	10:00~14:00	◎	9:00~13:00	休
15:00~19:00	◎	◎	◎	休	◎	休	休



くのうえ市丸歯科 検索 http://www.10shika.jp